

18春闘を総括し、日常活動の強化による組合員との信頼関係を構築で温もりの強固な組織をめざし、不当労働行為は絶対に許さず、生産性向上に真摯に向き合い、JR東労組の再構築に全組合員で立ち上がることを確認!



新たに阿部執行委員長体制が発足!

東京地本第35回定期大会

2018年6月17日～18日
福島県「郡山ユラックス熱海」

24名の代議員が力強く発言!

東京地本は6月17日～18日、東日本大震災の復興支援として位置付けて6回目となる、第35回定期大会を福島県「郡山ユラックス熱海」で開催しました。

大会では24名の代議員から発言があり、18春闘の総括として、ストライキを含む戦術行使の準備体制の構築のたたかいを通じて「所定昇給額による算出基礎にこだわらない」ことを確認し、また初任給見直しで若手に厚く配分することで、格差ペアで生じた「賃金格差」を是正する成果を実現した根拠は、日々の日常活動の積み重ねと総対話行動を軸に組合員と真摯に対話してきたことを確認しました。会社による組合脱退強要の不当労働行為に抗するたたかいでは、分会が盾となって組合員を守るたたかいをつくり出し、職場で発生し組合員の勇気によって明らかにした不当労働行為は、今後も絶対に許さないたたかいを積み上げていくこと。3月20日に結成した「新鉄労」は組織破壊攻撃であり、それに抗する組織の再構築に向けたたたかいの報告と決意がありました。

また、生産性向上に伴う効率化施策が大きな波として押し寄せている中で、今後の駅の将来像に向けて組合員との議論でつくり上げた「組合案」実現に向けたたたかい。会社から提案された「乗務員勤務制度の見直し」でめざされていることと、移動労働が前提である乗務労働の特殊性と専門性、輸送サービスのあり方を明確にすることなど、今後のたたかいの視点を明確にしてきました。

会社は施策を無条件に進めていくために「非組合員化」をめざしています。労働組合ではない会社の従属的な私的組織である「社友会」では社員・組合員の利益を守ることはできません。それは多くの代議員からの発言で証明され、労働組合の存在意義と必要性を実感するものでした。目的意識をもったレクや歓迎会をはじめとした日常活動の積み重ねや、職場で発生した問題を全組合員で向き合うことで職場環境の改善と分会組織を再構築してきたこと。過半数代表者選出選挙で立候補した分会長が組合員数より多くの票が入るといふ、この間のたたかいで組織の強化を図ってきた教訓的な発言は、全職場で共有化を図っていかねばなりません。

6月15日、福島県金山町で只見線復旧の起工式が行われ、2021年の全線開通に向けて本格的に復旧工事を開始しました。また、改正鉄道軌道整備法が成立し、只見線にも国の財政支援が適用されることになりました。これは、この間の東京地本の「DESTINATION只見」の取り組みが実を結び、政策提言が実現する大きな成果です。今後も「只見町地域おこし協力隊」で地域と連帯した活動を継続し、23線区を含めた地方ローカル線の未来を創造していきます。

私たちは今、これまでにない困難な局面に立っていますが、未来のJR東労組とJR東日本会社を創造するために全組合員が団結することです。そして労働組合の存在意義を示し、やむなく脱退した組合員のJR東労組への再結集を呼び掛け、JR東労組の再構築に向けて全職場から立ち上がることを確認しました。

今大会で、新たに阿部執行委員長体制が発足しました。今後も東京地本は、施策に真摯に向き合い、日常活動の強化による信頼関係の構築で温もりのある強固な組織をめざし、決して諦めず、最後までたたかいます。